

# 学校探訪レポート

～先生は、みんなのパーソナルトレーナー！寄り添う授業の工夫を見つけました～

校長 古閑 龍太郎

スポーツのパーソナルトレーナーは、その人に合わせたメニューを考え、隣でずっと励まして伴走してくれますよね。実は田辺中学校の先生も、子どもたち一人一人の「わかった！」「できた！」のために、見えないところでたくさんの工夫を凝らして伴走してくれる最高のトレーナーです。今回は、3年5組で行われた理科の授業（平山さくら先生）で見つけた、プロフェッショナルで温かい授業の舞台裏をレポートします！

## ◆ 疑問から始まる科学の探究



この日のテーマは「遺伝の仕組み」。教科書に書かれた「メンデルの法則」をただ暗記するのではなく、平山先生は「教科書のきまりは本当に正しいのかな？自分たちで確かめてみよう！」という問いかけから授業をスタートさせました。まさに科学の起源を感じさせる、ワクワクするアプローチです。

子どもたちは、身近な「ストロー」と「封筒」を遺伝子のモデルに見立て、手を動かしながらシミュレーションを行いました。目に見えない抽象的な遺伝子の組み合わせを、

自分の手で操作することで、子どもたちの目が生き生きと輝いていくのが印象的でした。

## ◆ デジタルを駆使した「驚きと納得」の共有

さらに素晴らしかったのが、タブレット端末とエクセルファイルの共有機能をフル活用した効率的な工夫です。各班が実験して得たバラバラのデータをタブレットに入力すると、瞬時にクラス全体、そして学年全体のデータへとリアルタイムで集計されていきました。

自分たちの班だけでは「教科書通りの比率にならないなあ」と首を傾げていた子どもたちも、クラスや学年全員のデータが合わさることで、みるみるうちに綺麗な理論値（1:2:1）へ収束していく画面を見て、「おおーっ！」と納得した表情がみられました。

平山先生は、班ごとの誤差を否定することなく、「回数が増えるほど、本当のきまりに近づいていくんだよ」と、確率の不思議さへと優しく導いておられました。デジタルをただの道具ではなく、子どもたちの「納得感」と「深い学び」を生み出す魔法のツールとして着実に使いこなされている姿に、プロとしての情熱を感じました。

## ◆ おわりに

子どもたちが受け身にならず、自ら考え、表現できるよう、裏側で緻密な準備と温かいサポートをしてくださっている平山先生。こうした先生方の情熱と工夫があるからこそ、子どもたちは毎日安心して、楽しく学ぶことができています。いつも本当にありがとうございます！